

## 「鳥獣被害対策」の取り組みについて

### 1 平成30年度の取り組み状況

#### (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

【成果目標】 合計1,000集落での被害ゼロによる農林業被害の軽減

- ・野生鳥獣に強い高知県づくり第2期の推進
  - H30年度から3年間で500集落を支援（目標：合計1,000集落の被害ゼロ）
  - H30年度支援集落：170集落（12月末現在合意形成集落：141集落（累計641集落））
- ・第1期等で合意した集落へのフォローアップの実施
  - H30年度フォローアップ対象集落：102集落（12月末現在うち68集落で支援活動中）
- ・シカ用防護柵やサル用防護柵設置等への支援
  - 鳥獣被害防止総合対策交付金（国）の活用：10市町村（195,449千円）
  - 中山間地域所得向上支援事業（国）の活用：2市村（74,000千円）
  - 野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金（県）の活用：15市町村（27,201千円）

#### (2) シカ捕獲目標3万頭の早期達成に向けたわな猟の強化

【成果目標】 シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

- ・狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ
  - 狩猟免許試験合格者数：235名（1/15現在）今年度14回実施（臨時試験2回追加）
  - 出前講座による若い狩猟者への働きかけ：高知大学10/24、幡多農業11/2、高知農業11/6、四万十高校1/17、窪川高校1/17、農業大学校1/24〔予定〕、高知農業2/9〔予定〕
  - 狩猟免許大量更新への対応：更新2,891件（対象件数3,460件）更新率84%
  - 狩猟フォーラムの開催：10/8香美市（来場者数164名）、11/11四万十市（来場者数86名）
- ・狩猟者の技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援しシカの捕獲を推進
  - シカ捕獲推進事業費補助金：くくりわな3,744基予定（18市町村）
- ・ICTを活用した大型囲いわなによる新たなシカ捕獲の実証実験
  - 指定管理鳥獣捕獲等事業：ICT付き大型囲いわなでの捕獲を実施中（9/27設置、10/10捕獲開始～2月末〔予定〕）
- ・狩猟期間の延長：11月15日～3月15日 → 11月15日～3月31日（8/3公告）
- ・捕獲した鳥獣の有効活用推進のための官民協働による研究会活動やジビエフェアの開催
  - よさこいジビエ研究会：7/26、3月〔予定〕、よさこいジビエ調理教室：10/20、県庁食堂秋のジビエウィーク：11/15～21、よさこいジビエフェア1/15～3/14
- ・安定供給の体制づくりを目指した処理施設への搬入や施設での産業廃棄物の処理を支援
  - ジビエ利用拡大狩猟者講習会：10/14、10/15、11/7（合計参加者数76名）
  - ジビエ利用拡大狩猟捕獲支援：10/30（2施設と契約）、11/15～2/28搬入受入れ
- ・集落活動センターにおけるジビエ活用事業への支援
  - ゆすはら西処理施設での処理頭数（シカ・イノシシ）：323頭（12月末現在）

## 2 課題

### (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

- ・ 集落ぐるみで取り組む対策への住民意識の醸成
- ・ 合意形成の加速化のための総合的なサル対策の推進

### (2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けた捕獲対策の強化

- ・ 狩猟者の高齢化
- ・ 若者や女性の狩猟に対する意識の醸成
- ・ 密度が薄く広範囲に生息するシカの効果的な捕獲方法の検討
- ・ 捕獲した鳥獣の有効活用の推進

## 3 平成 31 年度の取り組み方針・進め方

### (1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

【成果目標】 合計 1,000 集落での被害ゼロによる農林業被害の軽減

- ・ 野生鳥獣に強い高知県づくり第 2 期の着実な推進
- ・ 被害の再発を防ぐためのフォローアップの継続
- ・ [新規] 防除と捕獲に追い払いや環境整備を加えた総合的なサル被害対策の実施

### (2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けた捕獲対策の強化

【成果目標】 シカ捕獲 3 万頭の捕獲体制の確立

- ・ [拡充] 狩猟免許試験の申請に必要な診断書料への支援をメニュー化し狩猟者確保対策を実施
- ・ [拡充] くくりわなの購入への支援や捕獲報償金の支給による捕獲の推進
- ・ [新規] ICT を活用したくくりわなによる新たな捕獲技術のモニター実証
- ・ 捕獲した鳥獣の有効活用を図るための消費拡大や処理施設に搬入した場合の報償金の支給などによる安定供給への支援

守り

防除（防護柵の設置などの防除）

攻め

捕獲（わなや銃による捕獲）

## 【これまでの主な取り組み】

◆平成24年度から鳥獣対策を抜本強化  
・集落ぐるみで取組む総合的な対策で被害「ゼロ」にするモデル集落（3年間で31集落）を育成し、成功事例を構築

◆平成27年度からさらなる強化  
「野生鳥獣に強い高知県づくり」第1期（H27～H29）の推進  
・3年間で572集落を支援  
・県づくりを推進する鳥獣被害対策専門員を拡充（H24:10名→H29:16名）

☆ 500集落で集落ぐるみでの被害対策について合意を形成

◆平成30年度からさらなる強化  
①「野生鳥獣に強い高知県づくり」第2期（H30～H32）の推進  
・新たに3年間で500集落を支援  
②これまでに合意した集落へのフォローアップも実施

◆シカの年間捕獲目標3万頭の達成に向けた捕獲の強化

①狩猟者の確保・育成  
・予備講習会や射撃教習の受講料を補助  
・わな猟の捕獲技術講習会  
②捕獲の推進  
・捕獲報償金による支援  
・くくりわなの無償配付



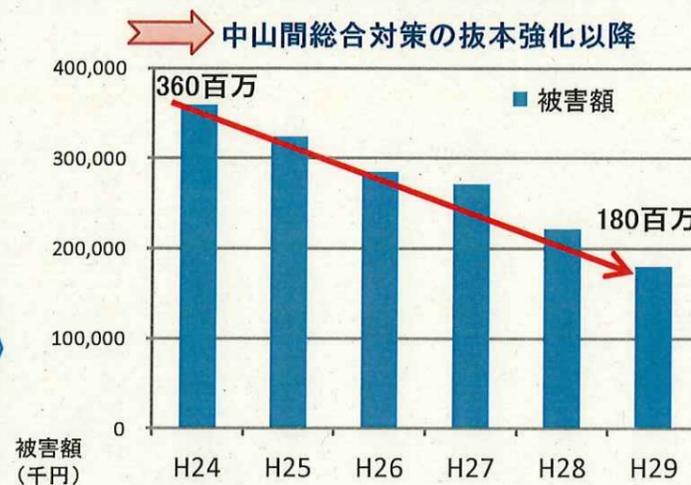
◆平成30年度からのさらなる強化

①狩猟者の確保・育成  
・狩猟フォーラムと狩猟体験ツアーを一体的に実施することで狩猟者を確実に確保  
・初心者や未登録者の参画促進のためのくくりわな製作講習会の実施  
・農大や高校等での出前講座  
・狩猟免許大量更新への対応  
②捕獲の推進  
・使い勝手が良いくくりわなの購入を支援  
・ICTを活用した囲いわなによる新たなシカ捕獲の実証実験  
・狩猟期の延長



## 【成果と課題】

### 野生鳥獣による農林水産業被害額の推移



被害額は、ピーク時から半減

しかし、依然として2億円近い、高い水準

### 【課題】

○野生鳥獣に強い高知県づくり第2期における合意形成の加速化にはサル対策の強化が不可欠  
○サル対策には、これまでのモデル事業（「サル用囲いわな」や「サル用防護柵」）の成果を活かした総合対策が重要

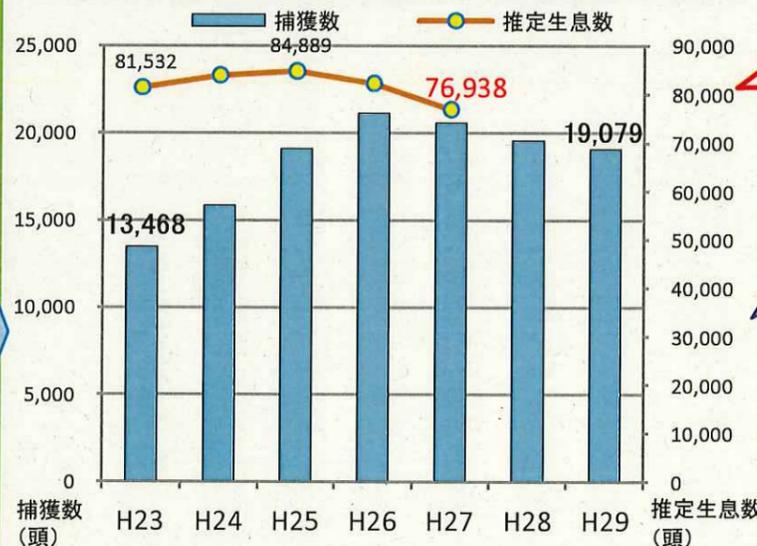
### 農業被害のうちサルの割合が増加

H24: 10.7% → H29: 12.0%

### サル被害の深刻な集落数が増加

H27: 102集落 → H29: 131集落

### シカの捕獲数と推定生息数の推移



捕獲数は約2万頭まで増加  
推定生息数が減少に転換

しかし...近年捕獲数が微減、捕獲の担い手である狩猟者も高齢化

### 【課題】

○捕獲の担い手である狩猟者の高齢化  
○若者や女性の狩猟に対する意識の醸成  
○シカ捕獲への参画促進  
○密度が薄く広範囲に生息するシカの効果的な捕獲方法

### 狩猟者の年齢構成（H29年度）



約8割が60才以上の狩猟者

## 【H31～重点的な取り組み(案)】

◆被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化 480,498千円

○野生鳥獣に強い高知県づくり第2期の推進  
・被害の深刻な集落を対象に3年間で500集落を支援する「野生鳥獣に強い高知県づくり」第2期の着実な推進  
H30: 170集落  
○合意形成集落へのフォローアップの徹底  
・被害の再発を防ぐため、野生鳥獣に強い高知県づくり第1期等で合意した集落への徹底したフォローアップの実施  
H30: 102集落

○サル総合対策事業の実施 **拡充**  
・防除と捕獲に追い払いや環境整備を加えた総合的なサルの被害対策を支援  
・成功事例を他の支援集落に拡大し早期の被害集落の解消を目指す

サル用防護柵



囲いわな



追い払い環境整備



◆シカ捕獲3万頭の早期達成に向けた捕獲の強化 121,206千円

○捕獲の担い手確保  
・シカ捕獲の担い手である狩猟者の確保に重点支援 **拡充**  
\*狩猟免許受験に必要な診断書料への助成  
⇒ 新規狩猟者の増加  
\*くくりわな製作講習会で自作したわなをお持ち帰り  
⇒ ペーパーハンターの減少  
\*免許の更新に向けた活動（DMなど）  
⇒ 免許所持者の確保

### ○捕獲の推進

\*くくりわなの購入を支援  
\*狩猟によるシカ捕獲に報償金を支給  
⇒ 捕獲頭数の増加  
\*ICTを活用したくくりわな等による新たな捕獲の実施



### ○有効活用の推進

・消費拡大や安全・安心な流通、安定供給などを支援  
⇒ 捕獲の促進

